

自立と連帯、「新しいつながり」の再構築

11年連続で3万人を超えた自殺者が、今年はさらに記録を更新しそうな状況にある。老人の孤独死、ワーキング・プアや広がる“貧困”、生き残りを賭けた競争下で職場のストレスは増大し、うつ病やメンタルヘルスも進行している。正規も非正規も、若者もお年寄りも、生活の不安・雇用の不安・老後の不安の中で閉塞状況に陥っている…。

これが戦後の荒廃から、豊かな社会をめざして必死の努力を続け、まがりなりにも世界有数の経済大国となった日本の到達点かと問われれば、「何かがおかしい」「このままで良いはずはない」というのが、多くの国民の思いではないだろうか。

しかし、みんな貧しくても肩を寄せ合い、明日への希望に胸を膨らませていた「三丁目の夕日」の世界をなつかしんでいても解決策とはならない。成長から成熟へ、人口構造の大転換、グローバル化の進展、技術・情報革新等の中で、雇用や家族、地域のあり方の変容も含め、時代は大きく変わっている。「古い共同体」が崩れ、それに代わる「新しいコミュニティ」や「新しい生き方」が形成できないまま、個人がバラバラで孤立した状態が進んでいる—それが今日の日本の姿ではないか。

では、これからどうする？ どんな社会をめざしていけばいいのか？ その答えの輪郭や方向感は徐々に姿を現しつつあると思う。20世紀型文明の行き着く先を示したかのような強欲資本主義の暴走による世界経済危機の霧が晴れた後、めざすべき21世紀社会のありようは、おそらく①自己責任を全面に、弱者を切り捨てていくような市場原理最優先の新自由主義的社会でもなければ、②かつての「カイシャ」や「イエ」や「ムラ社会」に囲い込み・依拠する伝統的・保守社会への復古でもない、③第三の道—すなわち人間の成長と信頼に基礎を置き、グリーンで活力ある経済と安心の福祉の両立をめざした、誰もが排除されることのない全員参加の連帯社会だ。

連合が先取りし掲げ続けてきた、「労働を中心とした福祉型社会」への壮大な挑戦は、いよいよこれから本番を迎える。①全力をあげた雇用機会の創出と、正規・非正規を超えた公正な労働基準の確立。日本型ワークシェアリングへの挑戦。②積極的雇用・労働政策とリンクさせた安心のセーフティネット網の総合的再整備。③生涯教育や職業訓練を整備したりカレントな就労支援。④保育や介護、労働時間の短縮・柔軟化などによる間接的な就労支援。⑤子育てや教育の社会化、公共的な住宅政策、社会サービスによる生活コストの引き

下げ。⑥年金・医療・介護など将来にわたり安心を担保する社会保障制度の再構築—など取り組むべき政策課題は総合的で多岐にわたる。

と同時にもう一つ、忘れてはならない大事なことがある。それは「ハード」（制度や仕組み、財政的措置）だけではない「ソフト」面での対応だ。心の豊かさや、生きがい、とりわけ「自分はひとりぼっちではない」「誰かとつながっている」「必要とされている」と思えるような社会づくりができるかどうかにかかっている。

先日、友人が主催する「たおやかコンソーシアム2009」という勉強会で、スウェーデンの高齢者の自立した暮らしぶりを聞く機会があった。講師の藤原留美さんが、3年にわたってスウェーデンのエスロブという地方都市で一人ひとりのお年寄りから取材した実例がビジュアルに紹介され、「人間の尊厳とは何か」改めて先進福祉国家の一本筋の通った理念や、取り組みの懐の深さに感動させられた。

スウェーデンの2世帯同居率は4%（日本52%）、一人暮らしの比率39%（日本29%）と、圧倒的に一人暮らしの高齢者が多いにもかかわらず、スウェーデンのお年よりは、決して孤独ではない。家族とのふれあい—高齢者が家族と会う頻度＜毎日＞スウェーデン31.7%、日本13.5% ＜週一度＞ス37.6%、日16.7% ＜年数回＞ス3.9%、日37.9%—が物語る数字に一瞬ハッとさせられる。友人や趣味を通じた仲間とのコミュニケーションも鍵をにぎっている。みんなが集まる自主運営のクラブ活動や、誰でも使えるレストランのある高齢者集会場（ミーティング・スポット）を中心に、高齢者アパートが囲む都市住宅計画のあり方。「ちょっとゴミ出し」「一緒に散歩」「かわりに買い物」など、高齢者への友愛活動をボランティアで行う年金者組合や、多様なNPO・NGOの活動。そして最後まで健康で自立した人間として、自分らしく生きがいをもって暮らす一人ひとりのお年寄りたち。

2002年国民健康政策として、打ち出された11の国家目標の一つに、「社会参加して、自分が社会に影響を与える存在になる」が掲げられている。

日本で生まれ生涯をまっとうして、本当に「しあわせ」だったといえるような社会づくりに向けた、新しい連帯やコミュニティのあり方が問われている。自治体や市民団体、NPO、社会的企業等とならんで、労働組合もその一翼を担っていく行動を起こしていこうではないか。

（固茹卵）